

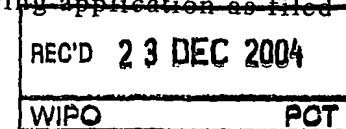
日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

04.11.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年11月19日



出願番号
Application Number: 特願2003-389371

[ST. 10/C]: [JP2003-389371]

出願人
Applicant(s): 株式会社吉野工業所
ザ プロクター アンド ギャンブル カンパニー

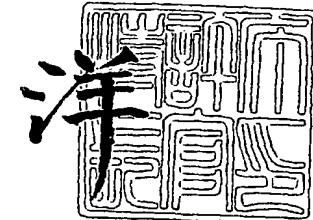
Best Available Copy

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年12月13日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川



【書類名】 特許願
【整理番号】 03-10-02
【提出日】 平成15年11月19日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 A45D 33/00
B65D 1/22

【発明者】
【住所又は居所】 大阪府茨木市宇野辺1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内
【氏名】 神村 千秋

【発明者】
【住所又は居所】 大阪府茨木市宇野辺1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内
【氏名】 荒井 次男

【特許出願人】
【識別番号】 000006909
【氏名又は名称】 株式会社 吉野工業所

【代理人】
【識別番号】 100076598
【弁理士】
【氏名又は名称】 渡邊 一豊
【電話番号】 03-3382-6771

【手数料の表示】
【予納台帳番号】 009162
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1

【書類名】特許請求の範囲

【請求項1】

上端開口縁に外甥状の甥片(23)を設けた有底短筒形状に形成され、化粧料(K)を収容した中皿(21)を、前記甥片(23)を上端面上に載置させて、収納筒(3)内に収納保持する本体(2)と、頂壁(10)の下面に、リング状の軟質弾性材製のパッキン(16)を抱え込んだ構成で離脱不能に遊びのある状態で組付け保持し、前記本体(2)に対して被嵌状に着脱自在に螺合組付として、前記甥片(23)に対するパッキン(16)の密な弾接により、前記中皿(21)を密閉するキャップ体(9)と、から構成され、前記本体(2)とキャップ体(9)との少なくとも一方に、他方側に突き当たって、前記キャップ体(9)の本体(2)に対する螺合組付が完了する位置を、前記パッキン(16)の弾接変形を弾性変形範囲内に規制する位置に設定する突き当たり片(11)を設けて成るレフィル容器。

【請求項2】

パッキン(16)の成形材料である軟質弾性材を、ゴムとした請求項1記載のレフィル容器。

【請求項3】

本体(2)を、収納筒(3)と、キャップ体(9)と螺合する螺筒(7)との、上端間を連結した二重筒構造とし、前記螺筒(7)の下端に脚筒片(8)を設けて構成した請求項1または2記載のレフィル容器。

【請求項4】

頂壁(10)の下面に、短筒片状に垂下設した突き当たり片(11)を、本体(2)に収納保持された中皿(21)の甥片(23)の上面に突き当たる構成とした請求項1、2または4記載のレフィル容器。

【請求項5】

突き当たり片(11)を、本体(2)の上端面に突き当たる構成とした請求項1、2または3記載のレフィル容器。

【請求項6】

甥片(23)に密に弾接するリング状の主体部(17)と、該主体部(17)の内側に位置して、キャップ体(9)への組付き部分となるリング状の嵌り込み部(18)とから構成したパッキン(16)を、径方向に遊びを持った状態で、頂壁(13)と、該頂壁(13)に組付け固定されるパッキン押え(13)との間に、前記嵌り込み部(8)を位置させて離脱不能に組付け保持する請求項1、2、3、4または5記載のレフィル容器。

【書類名】明細書

【発明の名称】レフィル容器

【技術分野】

【0001】

本発明は、化粧料を収容保持した、交換可能な中皿を、密に収納保持するレフィル容器に関するものである。

【背景技術】

【0002】

粉末化粧料や固形化粧料等の化粧料は、中皿に収容された状態でコンパクト容器に収納されるが、この化粧料を収容した中皿を、コンパクト容器に対して着脱自在とし、これにより経済性および利便性を高めたものが多用されている。

【0003】

この中皿を着脱自在としたコンパクト容器を、有効に使用するに際しては、交換用の中皿を収容保持する、専用のレフィル容器を利用するのが有利である。

【0004】

このレフィル容器としては、蓋体と本体とを、嵌合係止自在となるように構成し、蓋体と本体のいずれか一方に凹陥状の指掛け部を形成したものがある。

【特許文献1】特開平11-276240号公報

【0005】

また、交換用の中皿に収容されている化粧料の乾燥、吸湿、さらには含有する芳香剤等の揮発成分の飛散を防止すべく、中皿を密閉する必要があるが、中皿の密閉を達成すべく、中皿の上端開口部を、易剥離性のシールフィルムで密閉したものがある。

【特許文献2】特開2003-210245号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、特許文献1に開示された従来技術にあっては、レフィル容器自体に、収納した中皿を密閉する能力がないので、収容できる中皿は、特許文献2に開示された中皿のように、それ自体が密閉されている中皿に限定されてしまう、と云う問題があった。

【0007】

また、特許文献1と特許文献2とを組合せた従来技術にあっては、シールフィルムの剥離により中皿を開封すると、中皿を密閉状態に復帰させることができないので、中皿を一旦開封した後は、特許文献1のレフィル容器は全くの不要物となり、経済性に劣る、と云う問題があった。

【0008】

さらに、中皿を一旦開封した後は、この中皿は、コンパクト容器に組付けられていない限り、その再密閉が不可能であるので、使用したい化粧料を替えたい場合には、現在使用している化粧料を使い切るか、現在使用している化粧料を中皿ごと捨てるしかなく、中皿に収容された高価な化粧料の利用状況が、きわめて不便なものとなっている、と云う不満があった。

【0009】

そこで、本発明は、上記した従来技術における問題点を解消すべく創案されたもので、中皿を確実に安定して密閉した状態で収納保持することを技術的課題とし、もって中皿単体の密閉の有無に関わりなく、中皿に収容された化粧料の品質を安全に維持すると共に、中皿の任意の交換使用を可能とすることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0010】

上記技術的課題を解決する本発明の内、請求項1記載の発明に手段は、上端開口縁に外甥状の甥片を設けた有底短筒形状に形成され、化粧料を収容した中皿を、この中皿の甥片を上端面上に載置させて、収納筒内に収納保持する本体を有すること、

頂壁の下面に、リング状の軟質弾性材製のパッキンを抱え込んだ構成で離脱不能に遊びのある状態で組付け保持し、本体に対して被嵌状に着脱自在に螺合組付きして、中皿の鍔片に対するパッキンの密な弾接により、中皿を密閉するキャップ体を有すること、本体とキャップ体との少なくとも一方に、他方側に突き当たって、キャップ体の本体に対する螺合組付きが完了する位置を、パッキンの弾接変形を弾性変形範囲内に規制する位置に設定する突き当たり片を設けたこと、

【0011】

この請求項1記載の発明にあっては、中皿を収納保持した本体に対してキャップ体を螺合組付けすると、キャップ体に組付けられたパッキンが、中皿の鍔片に密に弾接し、これにより中皿は、キャップ体により密閉され、この状態が保持される。

【0012】

このように、本発明のレフィル容器は、中皿を、新品、使用中の区別なく、密閉して収納保持することができるので、交換用中皿の収納容器として機能させることができ、コンパクト容器に組付けて携帯する中皿を、所望するものを選択して交換使用することが可能となる。

【0013】

また、キャップ体に対するパッキンの組付けは、接着等による不動な固定組付けではなく、パッキンを抱え込んだ構成で遊びのある状態で組付け保持するものであるので、パッキンはキャップ体に対して、シール機能を発揮する箇所から外れることなく、ズレ変位可能に組付くことになる。

【0014】

このため、キャップ体を本体に螺合組付けする際に、本体に対するキャップ体の相対回動により、パッキンが捩れ変形するが、キャップ体に対してパッキンがズレ変位可能に組付いているので、パッキンに発生しようとした捩れ変形は、パッキン自体の弾力によるズレ変位により、直ちに消滅する。

【0015】

このように、本体に対するキャップ体の螺合組付きに際して、パッキンに捩れ変形が発生するのを防止することができるので、パッキンに捩れ変形が発生して、このパッキンのシール機能を損なうと云うことがなく、これによりパッキンは、安定して確実なシール作用を発揮する。

【0016】

さらに、本体とキャップ体との間には、キャップ体の本体に対する螺合組付きが完了する位置を、本体とキャップ体との螺合組付きに伴うパッキンの弾性変形を、弾性変形範囲内に規制する位置に設定する突き当たり片が設けられているので、弾性変形範囲を越えたパッキンの変形を発生させる、キャップ体の締め込み過多を防止することができる。

【0017】

請求項2記載の発明は、請求項1記載の発明の構成に、パッキンの成形材料である軟質弾性材を、ゴムとしたこと、を加えたものである。

【0018】

この請求項2記載の発明にあっては、本体とキャップ体との相対回動により捩れ変形が発生し易いゴム製パッキンを、捩れ変形を発生させることなく使用することができる、ゴムの持つ高いシール機能をそのまま有効に発揮させることができる。

【0019】

請求項3記載の発明は、請求項1または2記載の発明の構成に、本体を、収納筒と、キャップ体と螺合する螺筒との、上端間を連結した二重筒構造とし、螺筒の下端に脚筒片を設けて構成したこと、を加えたものである。

【0020】

この請求項3記載の発明にあっては、本体を、中皿を組付け保持する部分と、キャップ体との螺合組付き部分とに分けて構成したので、両部分を無理なく構成することが可能と

なり、またキャップ体との組付け部分を構成する螺筒に「座」として機能する脚筒片を設けたので、中皿収納部分を構成する収納筒が、直接載置面に突き当たることがなく、その分、収納した中皿に対する外部からの衝撃の作用する機会を少なくすることになる。

【0021】

請求項4記載の発明は、請求項1、2または3記載の発明の構成に、キャップ体の頂壁の下面に、短筒片状に垂下設した突き当たり片を、本体に収納保持された中皿の錠片の上面に突き当たる構成としたこと、を加えたものである。

【0022】

この請求項4記載の発明にあっては、突き当たり片をキャップ体に設けたので、この突き当たり片を本体側に設けることによる不都合、例えば中皿の収納保持および出し入れの邪魔になる、と云う不都合の発生が全くなく、またパッキンに近接して位置することができる、規制作用を正確にそして確実に發揮することになり、また本体に収納保持された中皿の錠片に、パッキンが密に弾接すると共に、突き当たり片が突き当たるので、突き当たり片が錠片に突き当たった際ににおける、パッキンの錠片に対する弾接程度が常に一定したものとなり、これにより突き当たり片のパッキンに対する規制作用が、常に正確なものとなる。

【0023】

請求項5記載の発明は、請求項1、2または3記載の発明の構成に、キャップ体に設けた突き当たり片を、本体の上端面に突き当たる構成としたこと、を加えたものである。

【0024】

この請求項5記載の発明にあっては、中皿の錠片の幅を小さくすることが可能であり、またキャップ体から強大な締め付け力が中皿に作用しないので、中皿のより安全な収納保持を得ることができる。

【0025】

請求項6記載の発明は、請求項1、2、3、4または5記載の発明の構成に、中皿の錠片に密に弾接するリング状の主体部と、この主体部の内側に位置して、キャップ体への組付け部分となるリング状の嵌り込み部とから構成したパッキンを、径方向に遊びを持った状態で、キャップ体の頂壁と、この頂壁に組付け固定されるパッキン押えとの間に、パッキンの嵌り込み部を位置させて離脱不能に組付け保持すること、を加えたものである。

【0026】

この請求項6記載の発明にあっては、パッキンは、径方向に遊びを持った状態で、主体部と区画された嵌り込み部を、組付け専用部材であるパッキン押えと、キャップ体の頂壁との間に、位置させて組付け保持されるので、パッキンのキャップ体への組付け構成は、抱え込んだ構成となり、これによりキャップ体に対するパッキンの組付けは、周方向および径方向にズレ変位可能なものとなり、パッキンが捩れ変形状態となるのを防止する。

【0027】

また、パッキン押えは、パッキンの嵌り込み部に対向して位置し、パッキンの主体部からは離れて位置するものであるので、パッキン押えに影響されることなく、パッキンの主体部のシール機能が支障なく発揮できるようにすることは容易である。

【発明の効果】

【0028】

本発明は、上記した構成となっているので、以下に示す効果を奏する。

請求項1記載の発明にあっては、中皿を、新品、使用中の区別なく、密閉して収納保持することができるので、一つのコンパクト容器に組付けて携帯使用する中皿を、所望するものに選択交換することができるとなり、これにより高価なコンパクト容器の使用状況を、より有効なものとすることができる。

【0029】

また、キャップ体に対するパッキンの組付けは、抱え込んだ構成での遊びのある組付けであるので、パッキンはキャップ体に対してズレ変位可能に組付くことになるので、キャップ体を本体に螺合組付けする際に、パッキンに捩れ変形が発生しようとしても、この捩

れ変形は、パッキン自体の弾力によるズレ変位により、直ちに消滅するので、パッキンのシール機能が、捩れ変形により劣化すると云う不都合の発生を確実に阻止することができ、これによりシール機能を安定して発揮させることができる。

【0030】

さらに、本体とキャップ体との間には突き当たり片が設けられているので、弾性変形範囲を越えたパッキンの変形を発生させる、キャップ体の締め込み過多を防止することができ、これによりパッキンに、不正な永久変形を発生させるとか、損傷を与える等して、シール機能を低下させることができない。

【0031】

請求項2記載の発明にあっては、ゴムの持つ高いシール機能をそのまま発揮させることができる。

【0032】

請求項3記載の発明にあっては、本体の、中皿を組付け保持する部分と、キャップ体との螺合組付き部分とを無理なく構成することが可能となり、これにより本体の成形が容易となり、また螺筒に脚筒片を設けたので、収納した中皿に対する外部からの衝撃の作用する機会を少なくすることができ、これにより収納した化粧料の安全性を高めることができ。

【0033】

請求項4記載の発明にあっては、突き当たり片をキャップ体に設けたので、この突き当たり片が中皿の収納保持および出し入れの邪魔になる、と云う不都合の発生が全くなく、中皿の取扱い性の低下を防止し、またパッキンに近接して位置することができるので、規制作用を正確にそして確実に発揮することになり、これによりパッキンを安全に保護することになり、また本体に収納保持された中皿の鍔片に、パッキンが密に弾接すると共に、突き当たり片が突き当たるので、突き当たり片のパッキンに対する規制作用が、常に正確なものとなり、これにより突き当たり片のパッキンに対する規制作用の程度の設定が容易となる。

【0034】

請求項5記載の発明にあっては、中皿の鍔片の幅を小さくすることが可能であるので、中皿の構造を簡単化させることができ、またキャップ体から強大な締め付け力が中皿に作用しないので、中皿が不正に歪み変形して、収容した化粧料に割れ等の不都合の発生がなく、化粧料をより安全に収納保持することができる。

【0035】

請求項6記載の発明にあっては、パッキンは、径方向に遊びを持った状態で、主体部と区画された嵌り込み部で、キャップ体に、抱え込んだ構成で組付けられるので、キャップ体に対するパッキンの組付きを、周方向および径方向にズレ変位可能で、パッキンが捩れ変形状態となるのを防止することのできる状態とすることができます。

【発明を実施するための最良の形態】

【0036】

以下、本発明の実施形態を、図面を参照しながら説明する。

本発明は、図4に示すように、化粧料Kを収容保持して、コンパクト容器25に着脱自在に組付けられる金属薄板製の中皿21を、密に収納保持するレフィル容器1に関するものである。

【0037】

この中皿21が組付けられるコンパクト容器25（以下、図4参照）は、有底短筒状をした本体部26と、この本体部26に後端部同士を蝶番結合して開閉回動可能に組付いた蓋体部29と、本体部26に内装されて、中皿21の組付け収納空間を形成する中枠28とから構成されている。

【0038】

コンパクト容器25の本体部26の底壁には、組付けた中皿21を棒片（図示省略）で突き上げて、離脱させるための突き出し孔27が開設されており、また蓋体部29の下面

には、収納保持した中皿21の鍔片23に密に弾接して、この中皿21を密閉するパッキン体30が組付けられている。

【0039】

この中皿21のコンパクト容器25に対する組付きは、中皿21の有底筒状の胴筒を、鍔片23が中枠28の上端面に突き当たるので、中枠28内に挿入組付けした状態で、中皿21の胴筒の外周面に凹設された係止凹部22に、中枠28の内周面に設けた係止機能部を係止させて達成される。

【0040】

それゆえ、コンパクト容器25から中皿21を離脱させるには、蓋体部29を開いた状態で、突き出し孔27から棒片により中皿21を突き上げ、これにより係止凹部22に対する係止を強引に解除して、中皿21を上方に押上げて達成する。

【0041】

図1は、上記したようにしてコンパクト容器25に着脱される中皿21を、着脱自在に密閉収納する、本発明によるレフィル容器1の一実施例を示すもので、レフィル容器1は、中皿21を収納保持する本体2と、この本体2に着脱自在に螺合組付きして、中皿21を密閉するキャップ体9とから構成されている。

【0042】

本体2は、中皿21の胴筒を嵌入させて収納する、底板5を有する有底円筒状の収納筒3と、外周面に螺条を刻設し、収納筒3と上端間を連結して二重筒体構造を形成する螺筒7と、この螺筒7の下端に、外鍔状のフランジ片を介して垂下連設された、「座」を形成する脚筒片8とから構成されている。

【0043】

収納筒3は、その内周面に、中皿21が、鍔片23を本体2の上端面に載置させた組付きの完了した位置で、中皿21の横溝状の係止凹部22と係止する横条状の係止片4を設けており、また底板5の周端部に偏った個所に、指先の差込が可能な大きさの窓孔6を開設している。

【0044】

収納筒3と螺筒7の上端間を連結する連結部分の上面、すなわち本体2の上端面は、中皿21の鍔片23が安定して載置する平坦面となっており、また脚筒片8の下端面は、底板5の下面よりも下位に位置し、本体2を床面上に載置した際に、底板5が床面に突き当たることがないようにしている。

【0045】

キャップ体9は、平円板状の頂壁10の周端縁から、本体2の螺筒7に螺合する螺条を内周面に刻設した円筒形状の周壁12を垂下連設した有頂円筒形状をしていて、周端部に短円筒状の突き当たり片11を垂下設した頂壁10の下面には、パッキン押え13およびパッキン16が組付けられている。

【0046】

パッキン押え13は、周端部分を、キャップ体9にパッキン16を抱え込み状に遊びを有する状態で組付け保持する支え部14とし、残部である中央部分を、多数の小孔を開設して構成される滴下防止部15とし、この滴下防止部15および支え部14との間に隙間を形成した状態で、頂壁10に、超音波溶着（図2参照）により、またはアンダーカット結合（図3参照）により組付け固定される。

【0047】

ゴム製の、全体がリング状となったパッキン16は、シール機能を発揮する外側の主体部17と、組付き機能部を形成する内側の嵌り込み部18とに区画されており、肉厚となった主体部17には、その下面に寸法の大きな主シール条19が、そして上面に副シール条20が、それぞれ突周設されており、やや肉薄に成形された嵌り込み部18は、単純な平リング円板状となっている。

【0048】

このパッキン16は、キャップ体9に、径方向に遊びを持った状態で組付けられるが、

この径方向の遊び範囲の制限は、図2の場合、外側に位置した突き当たり片11と、内側に位置したパッキン押え13を取付けるための突片とにより達成し、図3の場合、外側に位置した突き当たり片11と、内側に位置したパッキン押え13の突片とにより達成している。

【0049】

このように、パッキン16は、径方向に遊びを持った状態で、嵌り込み部18全体を、頂壁10と支え部14との間で軽く挟まれて、キャップ体9に組付け保持されるので、その組付き状態は抱え込み状となり、キャップ体9に対して、周方向および径方向にズレ変位可能に組付くことになる。

【0050】

図2の実施例の突き当たり片11は、本体2に組付け保持された中皿21の鰐片23、すなわちパッキン16が密に弾接する鰐片23に突き当たることにより、本体2に対するキャップ体9の螺合組付きが完了する位置を設定するものとなっているので、中皿21の本体2に対する組付き状態の差異、例えば鰐片23の本体2上端面からの浮き上がり程度の差異に関わりなく、キャップ体9を本体2に螺合組付きが完了する位置まで組付けた際の、鰐片23に対するパッキン16の弾接力が常に一定した値となる。

【0051】

これに対して、図3は、突き当たり片11の他の実施例を示すもので、突き当たり片11は、中皿21の鰐片23を介することなく、本体2の上端面に直接突き当たるものとなっているので、キャップ体9の本体2に対する螺合組付きが強固で安定したものとなる。

【0052】

中皿21のレフィル容器1からの離脱は、本体2からキャップ体9を螺脱させた状態で、窓孔6から指先を差し込んで中皿21を押し上げて、係止片4と係止凹部22との係止を解除させて達成される。

【0053】

この際、窓孔6が周端側に偏って位置しているので、指先からの押し上げ力は、係止片4と係止凹部22とが係止している、中皿21の周端部近くに作用し、これにより指先による中皿21の取り出しを、無理なく達成することができる。

【0054】

なお、中皿21の底壁に突条設されたズレ防止条24は、中皿21に対する化粧料Kの収納固定を安定化させるためのものである。

【図面の簡単な説明】

【0055】

【図1】本発明の一実施形態の分解状態を示す、縦断面図である。

【図2】図1に示した実施形態の組立てた状態を示す、要部拡大縦断面図である。

【図3】本発明の他の実施形態の組立てた状態を示す、要部拡大縦断面図である。

【図4】コンパクト容器の中皿組付け状態を示す、縦断側面図である。

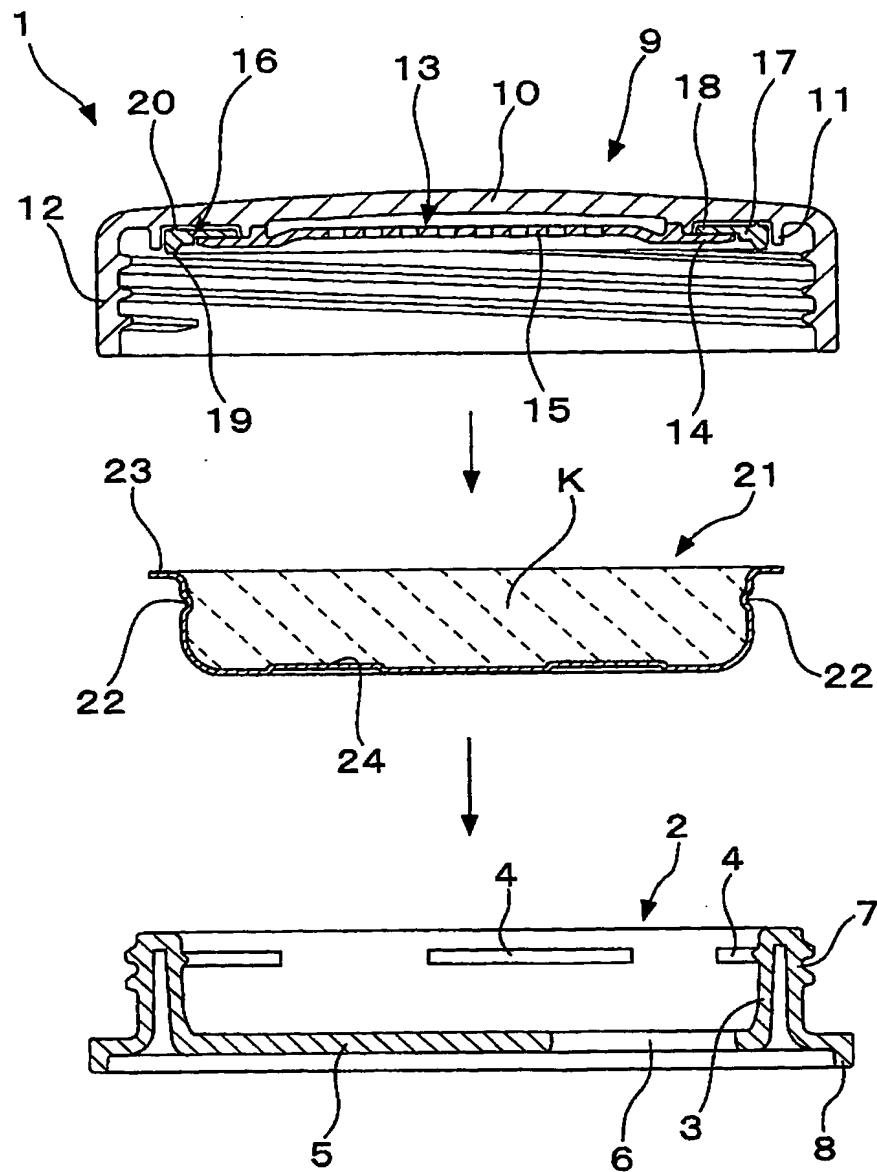
【符号の説明】

【0056】

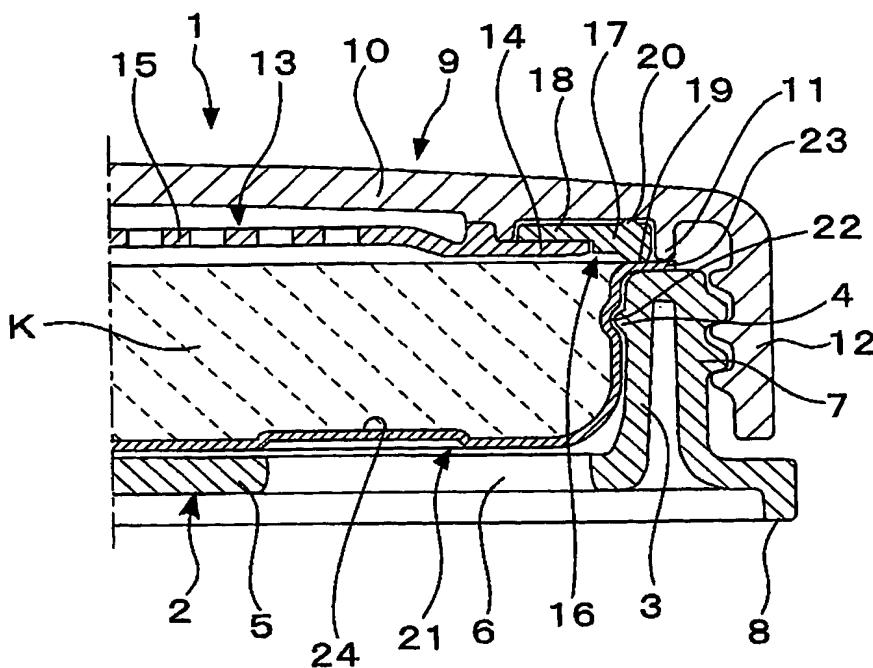
- 1 ; レフィル容器
- 2 ; 本体
- 3 ; 収納筒
- 4 ; 係止片
- 5 ; 底板
- 6 ; 窓孔
- 7 ; 螺筒
- 8 ; 脚筒片
- 9 ; キャップ体
- 10 ; 頂壁
- 11 ; 突き当たり片

1 2 ; 周壁
1 3 ; パッキン押え
1 4 ; 支え部
1 5 ; 滴下防止部
1 6 ; パッキン
1 7 ; 主体部
1 8 ; 嵌り込み部
1 9 ; 主シール部
2 0 ; 副シール部
2 1 ; 中皿
2 2 ; 係止凹部
2 3 ; 鎧片
2 4 ; ズレ防止条
2 5 ; コンパクト容器
2 6 ; 本体部
2 7 ; 突き出し孔
2 8 ; 中枠
2 9 ; 蓋体部
3 0 ; パッキン体
K ; 化粧料

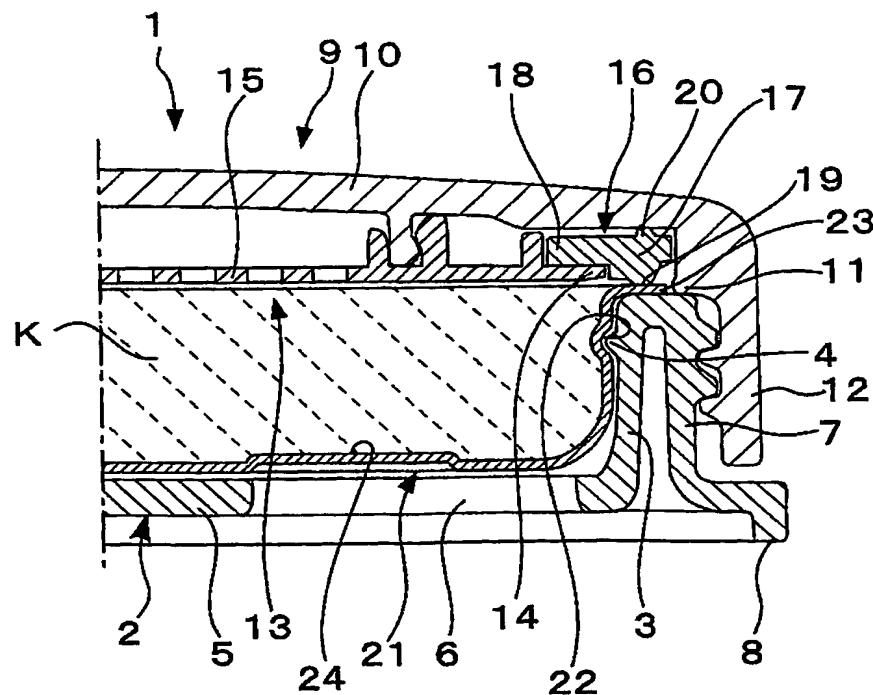
【書類名】 図面
【図1】



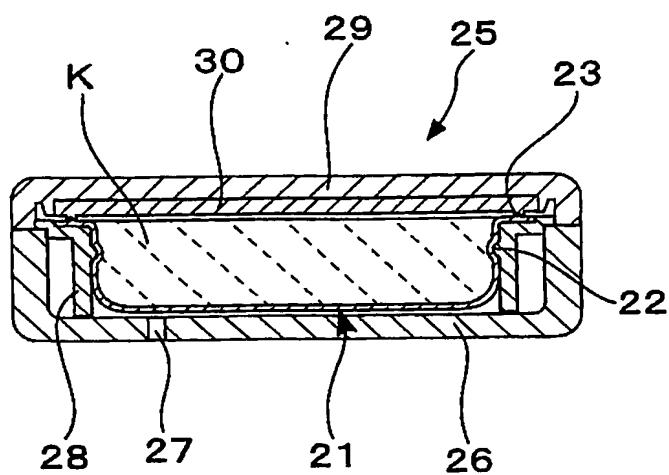
【図2】



【図3】



【図4】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 中皿を確実に安定して密閉した状態で収納保持することにより、中皿単体の密閉の有無に関わりなく、中皿に収容された化粧料の品質を安全に維持すると共に、中皿の任意の交換使用を可能とすることを目的とする。

【解決手段】 中皿21を、その鍔片23を上端面上に載置させて、収納筒3内に収納保持する本体2と、リング状の軟質弾性材製のパッキン16を抱え込んだ構成で離脱不能に遊びのある状態で組付け保持し、本体2に螺合組付きして、鍔片23に対するパッキン16の密な弾接により、中皿21を密閉するキャップ体9と、から構成され、キャップ体9の本体2に対する螺合組付きが完了する位置を、パッキン16の弾接変形を弾性変形範囲内に規制する位置に設定する突き当たり片11を設けて構成し、パッキン16の確実で強固なシール作用を得る。

【選択図】 図2

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-389371
受付番号	50301910539
書類名	特許願
担当官	駒崎 利徳 8640
作成日	平成 15 年 12 月 9 日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】	000006909
【住所又は居所】	東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号
【氏名又は名称】	株式会社吉野工業所

【代理人】

【識別番号】	100076598
【住所又は居所】	東京都中野区中野 2 丁目 25 番 8 号 三波ビル 渡辺内外国特許事務所
【氏名又は名称】	渡辺 一豊

【書類名】 手続補正書
【提出日】 平成16年 8月20日
【あて先】 特許庁長官殿
【事件の表示】
【出願番号】 特願2003-389371
【補正をする者】
【識別番号】 000006909
【氏名又は名称】 株式会社 吉野工業所
【代理人】
【識別番号】 100076598
【弁理士】
【氏名又は名称】 渡辺 一豊
【手続補正1】
【補正対象書類名】 特許願
【補正対象項目名】 発明者
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【発明者】
【住所又は居所】 兵庫県神戸市東灘区向洋町中3丁目1-10-2-212
【氏名】 古賀 督尉
【発明者】
【住所又は居所】 大阪府茨木市宇野辺1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内
【氏名】 神村 千秋
【発明者】
【住所又は居所】 大阪府茨木市宇野辺1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内
【氏名】 荒井 次男
【その他】 発明者追加の理由について、本発明は、宣誓書により宣誓のとおり、古賀 督尉（住所又は居所 兵庫県神戸市東灘区向洋町中3丁目1-10-2-212）神村 千秋（住所又は居所 大阪府茨木市宇野辺1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内）荒井 次男（住所又は居所 大阪府茨木市宇野辺1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内）の3人で行ったものであります。出願人は、出願を急いだため、発明者である古賀 督尉を願書に記載するのを忘れて特許出願をしたものであります。このような事情から古賀 督尉を発明者として追加致したく、ここに発明者の追加を行うものであります。

【書類名】 出願人名義変更届
【提出日】 平成16年 8月23日
【あて先】 特許庁長官殿
【事件の表示】 特願2003-389371
【承継人】
 【識別番号】 592043805
 【氏名又は名称】 ザ、プロクター、エンド、ギャンブル、カンパニー
 【代表者】 スチーブン、ダブリュー、ミラー
【承継人代理人】
 【識別番号】 100076598
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 渡辺一豊
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 009162
 【納付金額】 4,200円
【その他】 平成16年8月23日に手続補足書を提出しました。

認定・付加情報

特許出願の番号 特願2003-389371
受付番号 50401410719
書類名 出願人名義変更届
担当官 田村 吉章 9765
作成日 平成16年 9月27日

<認定情報・付加情報>

【承継人】

【識別番号】 590005058
【住所又は居所】 アメリカ合衆国オハイオ州, シンシナティ, ワン プロクター アンド ギャンブル プラザ
(番地なし)
【氏名又は名称】 ザ プロクター アンド ギャンブル カンパニー
一
【承継人代理人】 申請人
【識別番号】 100076598
【住所又は居所】 東京都中野区中野2丁目25番8号 三波ビル
渡辺内外国特許事務所
【氏名又は名称】 渡辺 一豊

特願 2003-389371

出願人履歴情報

識別番号

[000006909]

1. 変更年月日 1990年 8月23日

[変更理由] 新規登録

住所 東京都江東区大島3丁目2番6号
氏名 株式会社吉野工業所

特願 2003-389371

出願人履歴情報

識別番号 [592043805]

1. 変更年月日 2004年 5月11日

[変更理由] 識別番号の二重登録による抹消

[統合先識別番号] 590005058

住 所 アメリカ合衆国オハイオ州, シンシナティ, ワン プロクター
ー アンド ギャンブル プラザ (番地なし)

氏 名 ザ プロクター アンド ギャンブル カンパニー

特願2003-389371

出願人履歴情報

識別番号 [590005058]

1. 変更年月日 2004年 5月11日

[変更理由] 識別番号の二重登録による統合

[統合元識別番号] 592043805

住 所 アメリカ合衆国オハイオ州, シンシナティー, ワン プロクター
ー アンド ギャンブル プラザ (番地なし)

氏 名 ザ プロクター アンド ギャンブル カンパニー

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS

IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

FADED TEXT OR DRAWING

BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

SKEWED/SLANTED IMAGES

COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

GRAY SCALE DOCUMENTS

LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.